

**千葉県立中央博物館 実施計画**  
**(令和7年度～10年度)**  
**原案**

**千葉県立中央博物館**

# 目 次

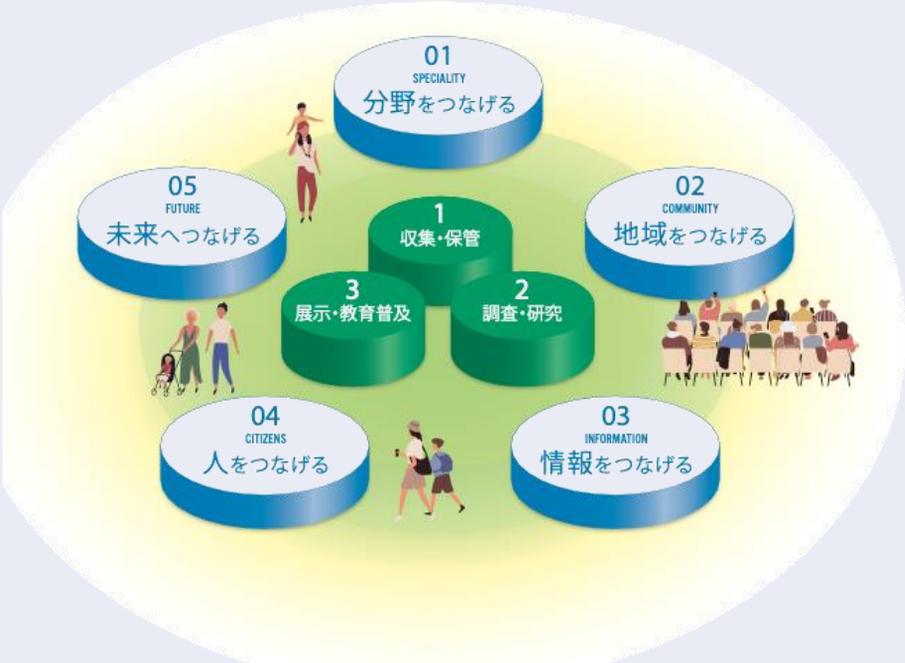
第1章	計画策定の趣旨	P.1
第2章	重点事業	P.2
第1節	4年間の総合的な目標及び重点事業	P.2
第2節	重点事業の内容	P.4
第1項	千葉の海の魅力を探り国内外に発信	P.4
第2項	世界とのつながりを意識した活動	P.5
第3項	他機関との連携強化	P.8
第4項	デジタル技術の活用	P.10
第5項	資料を未来に引き継ぐ	P.12
第3章	重点事業以外の事業	P.14
第1節	収集・保管	P.14
第2節	調査・研究	P.15
第3節	展示・教育普及	P.16
第4節	重点研究以外の評価指標	P.17
第4章	運営体制	P.18
第5章	進行管理	P.19
参 考	博物館事業別の取組	P.20

千葉県では、県立博物館をめぐる社会情勢の変化、県立博物館が抱える現状と課題、これからの県立博物館のあるべき姿を整理し、千葉県立中央博物館のリニューアルを見据えた基本計画として、令和6年3月に「**千葉県立中央博物館みらい計画**」を策定しました。

「千葉県立中央博物館みらい計画」の指し示す、基本コンセプト、目指す姿、取組の方針を受け、今後4年間（令和7年度～10年度）で取組むべき事業計画について、**収集・保管、調査・研究、展示・教育普及**の3つの博物館活動ごとに整理し、実施計画として策定します。

## 第1節 4年間の総合的な目標及び重点事業 (令和7年度～10年度)

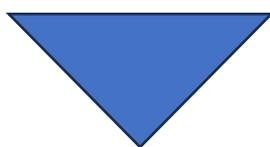
### 千葉県立中央博物館みらい計画（上位計画）

これからの中央博物館	自然系機能を維持・発展、人文系機能を集約・強化することで <b>総合博物館としての機能を強める</b>
目的	<b>県内博物館の中心となり、自然と歴史、文化に関する県民の知的需要にこたえ、生涯学習及び地域づくりに貢献し、ひいては科学の進歩・社会の発展に寄与する</b>
基本コンセプト	多彩な特徴をもつ半島ちばの未来を切り拓く
目指す姿	1) 千葉の自然と歴史、文化を見つけ、伝え、残す博物館 2) 千葉から世界に拓く博物館
大切にする価値観	1) 資料やフィールド活動を大切に 2) 中央博物館からつながりの輪を広げる
取組みの方針	以下の5つの「つながり」 

「千葉県立中央博物館みらい計画」を実現するため、今後4年間で取組むべき総合的な目標と重点的な事業を定めます。

## 総合的目標

指標	現状値	目標
①中央博物館の認知度	本館 24.7% 分館海の博物館 6.5% (R2年2月「文化芸術の振興に関するアンケート」)	令和6年の調査結果(冬公表予定)に基づき、決定予定
②中央博物館の年間入館者数	本館 96,381人 分館海の博物館 60,118人 (R5年度)	本館 146,000人 分館海の博物館 61,000人



## 重点事業

1. 千葉の海の魅力を探り、国内外に発信
2. 世界とのつながりを意識した活動
3. 他機関との連携強化
4. デジタル技術の活用
5. 資料を未来に引き継ぐ

## 第2節 重点事業の内容（令和7年～10年度）

### 第1項 千葉の海の魅力を探り、国内外に発信

【 未来計画：5つの「つなげる」： **分野** **地域** **情報** **人** **未来** 】

三方を海に囲まれた千葉県。日本最大級の砂浜海岸である九十九里浜、複雑に入り組んだ房総の岩礁海岸、東京湾の遠浅の干潟など、地域ごとに特色のある自然環境の中で、人々は海とともに生活し、地域ならではの文化を育んできました。

また、千葉県は海を介して日本各地や世界とつながっており、様々な地域とのかかわりを通して、多様な文化を生み出してきました。

中央博物館の多様な専門性を活かし、**自然・人文両分野で連携**することで、**千葉の海**の「おもしろい」を探り、新たな価値を創造・発信し、**地域の活性化や文化観光に貢献**します。

#### （1）具体的な取組

##### ①千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信

千葉の海の自然や、海を介した人々の暮らしについて、**自然・人文の連携により、他機関の研究者などとの共同して、国際的な視野を持って調査研究**を行い、千葉の海の新たな魅力を見つけだし、**論文や展示、ウェブ等によって世界中に広く発信**します。これを通じて、千葉の海の「おもしろい」を世界中の人々に伝え、多くの人に千葉の海へ足を運んでもらうきっかけを作ることで、地域振興、文化観光に貢献します。

- 東京湾の変遷について自然・人文の連携による調査研究と成果の発信
- 千葉県における海藻利用について自然・人文の連携による調査研究と成果の発信 **新規**
- 房総海岸部における動植物の調査研究と成果の発信 **新規**
- 千葉の海の幸を自然誌の視点で紹介する展示の開催
- 深海生物についての調査研究と成果の発信
- 分館海の博物館における海の自然に関する調査研究と成果の発信

##### ②千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催

**千葉の海をフィールドとした観察会や見学会**を通じ、海辺の生物の生態や海が育んだ千葉ならではの暮らし等、**千葉の海**の「おもしろい」を肌で感じてもらうことで、郷土愛を育み、千葉の海を守っていく人材を育成します。

- 房総の海辺の生物や地形等の観察会の開催
- 房総の海辺の文化等の見学会の開催
- 勝浦の磯を中心とした海洋生物等の観察会の開催（分館海の博物館）

(2) 実施スケジュール

	事業内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信	東京湾の変遷 (中央博重点研究※1)	研究及び資料収集 → 小冊子発行	展示準備	トピックス展開催	執筆 → 報告書 ウェブコンテンツ公開
	千葉県における海藻利用	研究及び資料収集	研究速報発行	展示準備 → 特別展開催	執筆 → 報告書 ウェブコンテンツ公開
	房総海岸部における動植物 (中央博重点研究※1)	予備調査 → 計画立案 → 準備	全体調査	外房調査・資料収集	内房調査・資料収集
	千葉の海の幸	準備 → 特別展開催	執筆	報告書 ウェブコンテンツ公開	
	深海生物	研究及び資料収集	計画立案 → 展示準備	特別展開催	執筆 → ウェブコンテンツ公開
	海の自然 (分館海の博物館)	展示準備 → マリサイサイエンスギャラリー※2開催	研究及び資料収集 → 展示準備 → マリサイサイエンスギャラリー※2開催	研究及び資料収集 → 展示準備 → マリサイサイエンスギャラリー※2開催	研究及び資料収集 → 展示準備 → マリサイサイエンスギャラリー※2開催
② 千葉の海をフィールドとした観察会や見学会の開催	房総の海辺の生物や地形等の観察会	R8予備調査・計画立案 → 事業実施	R9予備調査・計画立案 → 事業実施	R10予備調査・計画立案 → 事業実施	R11予備調査・計画立案 → 事業実施
	房総の海辺の文化等の見学会	予備調査 → 計画立案 → 開催準備予備調査	事業実施計画立案 → 開催準備予備調査	事業実施計画立案 → 開催準備予備調査	事業実施計画立案 → 開催準備予備調査
	勝浦の磯を中心とした海洋生物の観察会 (分館海の博物館)	開催準備予備調査 → 事業実施計画立案 → 開催準備予備調査	事業実施計画立案 → 開催準備予備調査	事業実施計画立案 → 開催準備予備調査	事業実施計画立案 → 開催準備予備調査

(3) 評価指標

項目	指標	現状 (R5)	目標値
			R10
① 千葉の海の魅力を探る調査研究の推進と発信	展覧会で「千葉の海の魅力の理解が増した」と回答した参加者の割合 (新規アンケート)	(新規)	- %
② 千葉の海をフィールドとした観察会や見学会で魅力を発信	千葉の海をフィールドとした観察会・見学会の開催件数	24件	-件

※1 重点研究：中央博物館が設定している研究課題。千葉県の自然と歴史及び博物館活動に関する今日的な課題について、短期集中的に調査し研究をおこなうプロジェクト研究。3～5年を研究期間としている。

※2 マリンサイエンスギャラリー：中央博物館分館海の博物館で毎年、年度末から翌年度にかけて開催する企画展示。

## 第2節 重点事業の内容（令和7年～10年度）

### 第2項 世界とのつながりを意識した活動

【 mirai計画：5つの「つなげる」： **分野** **地域** **情報** **人** **mirai** 】

世界とつながる海と空の窓口を持つ千葉県。海と空を通して古くから世界とつながり、多様な文化を生み出してきました。近年では、国際化の進展やグローバル化が進んでおり、より世界とのつながりを意識することが求められています。

また、地球規模での自然環境の悪化・消失や生物多様性の損失などが進んでおり、SDGsの達成が課題となっています。

世界の博物館等との交流や共同研究によって、千葉県と世界のかかわりについて研究するとともに、ウェブサイトや展示等の多言語化により、中央博から世界中の人々に千葉の「おもしろい」を届けます。また、生物多様性に関する研究等を行い、SDGsの達成に向けた取り組みを推進するとともに、千葉と世界の自然や文化を大切にす人材を育みます。

#### （1）具体的な取組

##### ①生物多様性などに関する研究の推進と発信

生物多様性を保全するためには、その重要性を多くの人々が認識することが必要です。そのため、**県内各地の動植物の生息状況の調査・研究**により千葉県内の生物多様性を明らかにするとともに、都市の中で豊かな生態系が築かれた**生態園※<sup>1</sup>**における**気象データや動植物の生息状況調査**により、多様な生き物のかかわりの仕組みを明らかにします。**これら研究の成果を展示や講座や観察会、ウェブ等を通して伝える**ことで、生物多様性や生態系保全の重要性を理解し、自然環境を守り、育てる人材を育成することで、SDGsの達成に貢献します。

- 県内各地（下総台地、房総海岸部、里山等）における動植物の調査研究と成果の発信 **一部新規**
- 生態園における環境や動植物の生息状況等の継続的な調査研究と成果の発信

##### ②世界の博物館等との連携・交流

**海外の博物館等との連携・交流を通じて、互いの国の自然や歴史、文化について紹介することにより、グローバルな視点での千葉県の新たな価値や魅力を発見**します。また、**博物館活動についての情報を共有**することで、国際的な潮流を踏まえた博物館活動を展開していきます。

- 海外の博物館等との住民参加型の博物館活動を通じた交流事業の実施 **新規**
- 海外の機関との研究等による交流

##### ③ウェブサイト、展示等の多言語化

博物館のウェブサイト、展示等の多言語化により、世界中の人々が千葉や世界の「おもしろい」に触れる機会を増やすことで、海外の利用者を増やし、多くの人を楽しめる博物館を目指します。

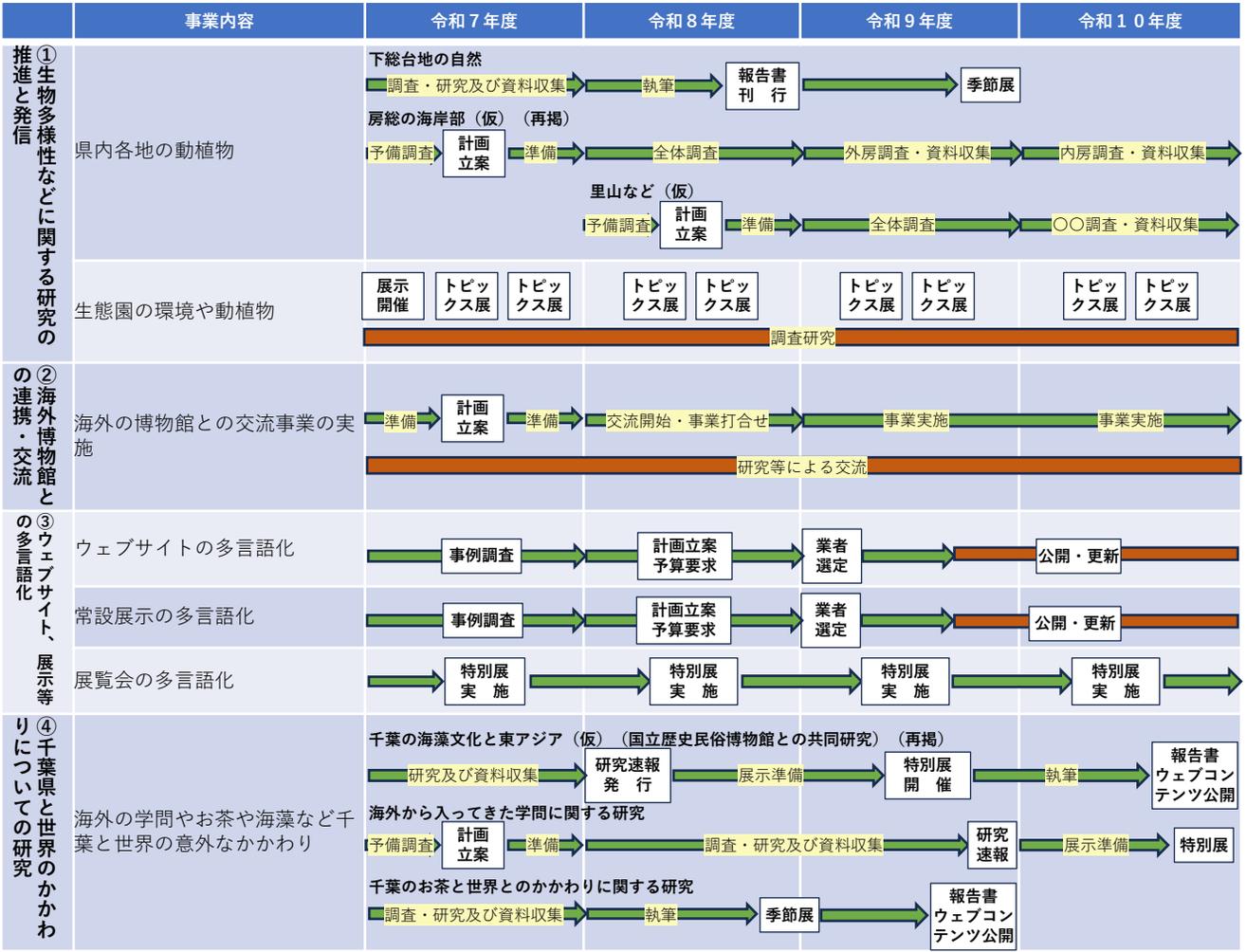
- 博物館利用案内や展示案内などのウェブサイトの多言語化
- デジタルミュージアム※<sup>2</sup>などウェブコンテンツの多言語化 **新規**
- 常設展示の解説パネル等の多言語化 **新規**
- 展覧会の解説パネルの多言語化

##### ④千葉県と世界のかかわりについての研究

千葉と世界とのかかわりについて研究し、その成果を展示として紹介することで、千葉県と世界とのかかわりを再認識してもらい、地球規模で物事を考えるきっかけにもらいます。

- 海外の学問やお茶や海藻など千葉と世界の意外なかかわりについての調査研究と成果の発信 **新規**

## (2) 実施スケジュール



## (3) 評価指標

項目	指標	現状(R5)	目標値	備考
			R10	
① 生物多様性などに関する研究の推進と発信	展覧会で「生物多様性の理解が深まった」と感じた参加者の割合	(新規)	- %	
② 海外博物館等との連携・交流	海外博物館等との連携した取組数(累積)	0件	- 件	
③ ウェブサイト、展示等の多言語化	多言語化したウェブサイト上のコンテンツ数(累積)	0件	- 件	
④ 千葉県と世界のかかわりについての研究	展覧会で「千葉県と世界のかかわりの理解が深まった」と感じた参加者の割合	(新規)	- %	

※1 生態園：中央博物館本館に隣接する野外観察施設。生きものの自然の中での暮らしぶり(生態)を展示している。

※2 デジタルミュージアム：千葉県立博物館のウェブサイト上のデジタルコンテンツ。各博物館ごとに資料の紹介、展示の紹介、研究成果の紹介等の番組を作成・公開している。

## 第2節 重点事業の内容（令和7年～10年度）

### 第3項 他機関との連携強化

【 未来計画：5つの「つなげる」： **分野** **地域** **情報** **人** **未来** 】

博物館をとりまく社会情勢の変化を背景とし、博物館には教育や文化の域を超えて、様々な分野との連携による地域社会へ貢献することが求められるようになりました。

そのため、市町村や市民団体等を含めた県内各地の様々な主体との連携事業や中央博物館が立地する青葉の森公園周辺施設との連携強化、博物館や研究機関等との協力体制の構築により**地域振興**及び**文化観光**<sup>※1</sup>に貢献します。

#### （1）具体的な取組と事業内容

##### ①様々な主体との連携

千葉県全域を対象とし、中央博物館が実施している「**フィールド・ミュージアム**<sup>※2</sup>」事業等において、**県内の様々な主体との連携を強化し、県内各地の自然や歴史、文化の地域資源情報を盛り込んだ観察ガイドマップを作成するとともに、県内各地のフィールドで観察会・見学会を実施**します。これらの活動を通し、県民が千葉の自然と歴史、文化と直接触れる体験機会を通し、千葉の「おもしろい」を伝えます。

また、**県内の様々な主体が野外で実施している博物館活動等の情報を集約・公開**し、県民が千葉の自然と歴史、文化とつなげる役目を果たします。

- 君津市立清和小学校等の県内各地の様々な主体と連携したフィールド・ミュージアム事業（観察会や見学会）の実施
- 県内各地の自然や歴史、文化の地域資源情報を盛り込んだ観察ガイドマップの作成 **新規**
- 市町村や団体等が県内各地で実施する観察会などの野外における博物館活動等の情報集約・公開 **新規**
- 様々な主体による観光イベントや広報媒体との連携による千葉の「おもしろい」の発信

##### ②青葉の森公園周辺施設との連携強化

中央博物館は、県立の都市公園「青葉の森公園」の中に立地しています。公園内には青葉の森公園芸術文化ホールをはじめとした諸施設があり、新千葉県立図書館等複合施設が建設される予定です。公園に立地する諸施設との連携を強化し、中央博物館等に多くの人を集め、地域振興に努めます。

- 青葉の森公園内で実施される「あおばまつり」等への参画
- 周辺施設と連携した**展覧会や公園で1日すごせるプログラム**の実施
- 展覧会や**レファレンスサービス**<sup>※3</sup>等における現県立中央図書館との連携の実施

##### ③博物館や研究機関等との連携強化

連携協定を締結している**国立歴史民俗博物館や東京大学千葉演習林をはじめとした博物館等との連携**を強化します。**博物館職員同士が共同研究できる環境を作り、交流の拠点となる**ことで、それぞれの特性を活かした視点から千葉の自然と歴史、文化の「おもしろい」を見つけ、**広報活動等の連携**を通じてより多くの人々に伝え、千葉を訪れる人を増やすことで地域振興及び文化観光に貢献します。

- 国立歴史民俗博物館との共同研究や展示、講座、広報活動の実施
- 東京大学千葉演習林との共同研究の実施や講座・観察会等の共催
- 千葉の自然と歴史、文化等に関する市町村立博物館職員等との共同研究等の実施
- 当館主催の共同研究に参画する研究員制度の整備

## (2) 実施スケジュール

事業内容		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度			
① 様々な主体との連携	フィールド・ミュージアム事業	重点地区 北 総	重点地区 上総臨海	重点地区 南房総	重点地区 ベイエリア			
	観察ガイドマップの作成	重点地区 上総臨海	重点地区 南房総	重点地区 ベイエリア	重点地区 九十九里			
	様々な主体が実施する野外における博物館活動等の情報集約・公開	関係団体との調整 サイト準備		ウェブサイト 開設準備	ウェブサイト 開設	公開・更新		
② 青葉の森公園周辺施設との連携強化	イベント企画等による様々な主体との連携強化	イベント等への参加						
	現県立中央図書館との連携事業の実施	「海の幸」など	恐竜（仮）など	深海生物（仮）など	チバニアン（仮）など			
	公園内施設との連携事業	公園で1日過ごせるプログラム 内容検討	構築・試行	イベント継続実施				
③ 博物館や研究機関等との連携強化	国立歴史民俗博物館	共同研究：千葉の海藻文化と東アジア（再掲） 研究及び資料収集		研究速報 発行	展示準備	特別展 開催	執筆	報告書 ウェブコン テンツ公開
	東京大学千葉演習林	共同研究の実施講座・観察会の共同開催						
		新事業の実施検討		新事業の共同実施・開催				
	博物館職員等との共同研究	重点研究：東京湾の変遷を探る（再掲） 研究及び資料収集	小冊子 発行	展示準備	トピックス展 開催	執筆	報告書 ウェブコン テンツ公開	

## (3) 評価指標

目標	指標	現状 (R5)	目標値	備考
			R10	
① 様々な主体との連携	連携した団体数	7件	-件	
② 青葉の森公園周辺施設の連携強化	共同で実施した事業数	0件	-件	
③ 博物館や研究機関等との連携強化	共同で実施した事業数	0件	-件	

※1 文化観光：文化についての理解を深めることを目的とする観光（文化庁HPより）

※2 フィールド・ミュージアム事業：房総の自然や文化そのものを“資料”や“展示物”と考える、野外で実施する博物館活動。

※3 レファレンスサービス：利用者の質問等について、必要な資料や情報を案内するサービス

### 第2節 重点事業の内容（令和7年～10年度）

#### 第4項 デジタル技術の活用

【 未来計画：5つの「つなげる」： **分野** **地域** **情報** **人** **未来** 】

情報通信技術の普及やデジタル社会の進展等により、あらゆる人々がインターネット等を通じて様々な情報に触れられるようになるとともに、従来は難しかった高解像度の画像や3D映像といった大容量データのオンライン提供が可能となりました。

博物館においても、資料情報のデジタル化を推進し、ウェブコンテンツの充実や外部システムとの連携をはかるとともに、行事や展示にデジタル技術を活用した新たな手法を取り入れることで人々の知的好奇心に応えます。

#### (1) 具体的な取組と事業内容

##### ① 博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実

高精細画像や3D画像の取得など、博物館資料情報のデジタル化を推進します。これにより、デジタルデータによる資料の閲覧等ができるようになり、実物資料の劣化が防げるようになります。さらに、**ウェブサイト等での公開**により、いつでもどこでも誰でも博物館資料情報が閲覧できるようになります。

また、**博物館のウェブコンテンツを充実させるとともに、より使いやすいウェブサイト**にリニューアルし、アクセシビリティを向上させ、誰もが博物館の情報とつながれるようにします。

- 高精細画像や3D画像などの取得による博物館資料情報のデジタル化と公開 **新規**
- デジタルミュージアム等におけるウェブコンテンツの充実
- ウェブサイトのリニューアルや収蔵資料データベースの拡充等、システム環境の整備
- デジタルデータ公開に係るポリシーの策定（R7年度）

##### ② 外部システムとの連携

博物館情報を扱うサービスには、国内外のデジタルアーカイブサイトと連携したプラットフォームや、国内外の同種の情報を集めたポータルサイトなど多くの外部システムがあります。これらと連携することによって、中央博物館の資料情報が世界中の資料情報と共に閲覧できるようになり、それぞれの資料に新たな知見が加わり、資料価値が高まる可能性を広げます。

また、世界中から中央博物館の資料情報にアクセスできるようになり、世界に開かれた博物館となります。

- 国際的なネットワークとの連携  
(地球規模生物多様性情報機構 (GBIF)※1 国際塩基配列データベース (INSD)※2)
- 国内のプラットフォームとの連携構築 (ジャパンサーチ※3、文化遺産オンライン※4 J-STAGE※5) **新規**
- 研究者間の交流促進 (Researchmap※6 との連携・拡充)

##### ③ オンラインによる行事の実施

**自然と歴史、文化に関する講座や講演会などをオンライン配信**することで、博物館に来訪しなくても気軽に博物館の行事に参加できるようになり、博物館利用者のすそ野を広げます。

また、**海外の機関とのシンポジウム等をオンラインで共同開催**することより、お互いがその場にながらつながることが可能となり、より多くの人々に様々な体験や経験を提供します。

- オンラインによる自然と歴史、文化に関する講座や講演会等の実施
- オンラインによる海外の機関とのシンポジウム等の共同開催 **新規**

##### ④ 展示等におけるデジタル技術の活用

高精細画像や3D画像などのデジタル化した博物館資料情報等を活用した新たな手法を展示等に取り入れることや、**研究成果等をSNS等でわかりやすく発信**することにより、自然と歴史、文化の「おもしろい」を人々に伝え、知的好奇心に応えます。

- 高精細画像や3D画像などのデジタル化した博物館資料情報を展示等に活用
- SNS等を活用した研究成果等の迅速な発信

## (2) 実施スケジュール

	事業内容	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度		
充 実 ル 化 と ウ ェ ブ コ ン テ ン ツ の デ ジ タ ル	① 博物館資料情報のデジタル化と公開	デジタル化（高精細画像化、3D画像化、写真フィルムのスキャンング等）・公開					
	デジタルミュージアム						
	ウェブコンテンツの充実	地学関連	動物資料	植物資料	人文資料		
携 携 シ ス テ ム と の 連 携	② 国際的なネットワークとの連携	地球規模生物多様性情報機構（GBIF）※2国際塩基配列データベース（INSD） 情報提供・連携継続					
	国内のプラットフォームとの連携構築	ジャパンサーチ・J-stage 連携検討	文化遺産オンライン 連携検討	情報提供・連携継続			
	研究者間の交流促進	Researchmap 連携・拡充					
行 事 の 実 施	③ オンラインによる講座等の実施	講座・観察会等のオンライン配信					
	海外施設とのシンポジウム等の共同開催	実施方法検討		シンポジウム	イベント		
用 デ ジ タ ル 技 術 の 活 用	④ デジタル化した博物館資料情報の展示等への活用	事例調査	準備	計画立案	準備	事業実施	公開・更新

## (3) 評価指標

項目	指標	現状 (R5)	目標値	備考
			R10	
① 博物館資料情報のデジタル化とウェブコンテンツの充実	博物館ウェブサイトへのアクセス件数	280,344件	-件	
② 外部システムとの連携	国内外の外部システムとの連携数	3件	-件	
③ オンラインによる行事の実施	講座・観察会等のオンライン参加者数	557人	-件	
④ 展示等におけるデジタル技術の活用	SNS等により研究成果の発信数	16件	-室	

※1 地球規模生物多様性情報機構(GBIF)：地球上のあらゆる種類の生物に関するデータをオープンアクセスで提供することを目的として設置された国際的なネットワーク

※2 国際塩基配列データベース(INSD)：全世界の研究者が実験によって決定した塩基配列データを収集・編集し、科学的記録として保存しているデータベース

※3 ジャパンサーチ：書籍・公文書・文化財・美術・人文学・自然史/理工学・学術資産・放送番組・映画など日本が保有する様々な分野のコンテンツのメタデータを検索・閲覧・活用できるプラットフォーム

※4 文化遺産オンライン：文化庁が運営する我が国の文化遺産についてのポータルサイト。全国の博物館・美術館等から提供された作品や国宝・重要文化財など、さまざまな情報を閲覧できる

※5 J-STAGE：科学技術振興機構が運営する電子ジャーナルプラットフォームで、日本から発表される科学技術情報の迅速な流通と国際情報発信力の強化、オープンアクセスの推進を目指している

※6 Researchmap：日本の研究者情報を収集・公開するとともに、研究者等による情報発信の場や研究者等間の情報交換の場を提供することを目的として、科学技術振興機構が運営するサービス

### 第2節 重点事業の内容（令和7年～10年度）

#### 第5項 資料を未来に引き継ぐ

【 未来計画：5つの「つなげる」： **分野** **地域** **情報** **人** **未来** 】

博物館の収蔵資料は、人類の共有の財産であるため、次世代に残し、未来につなげていく責務があります。そのため、収集した資料の標本化・整理・修復作業を行い、資料を収蔵可能な状態にし、収蔵庫等の安定した環境で長期にわたり保管していく必要があります。

中央博物館では、収集資料の標本化等の作業を迅速に行うとともに、**集約する地域館の資料を引継ぎ**、温湿度管理や燻蒸等を含めた収蔵環境の整備を進めていきます。また、**県内博物館の中心として、資料救済ネットワーク拠点機能**を強化し、市町村博物館や個人や学校等の地域が収蔵する資料を**未来へつなげる**支援体制を確立します。

#### (1) 具体的な取組と事業内容

##### ①収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進、地域館資料の集約・保管

収集した資料の特性に応じた標本化・整理作業等を行い、採集場所や日時等の資料情報を附して、収蔵資料データベースに登録します。この作業を通じて収集資料が県民の宝である収蔵資料となり、未来につなぐことが可能となります。

- 収集資料の標本化・整理・修復作業の推進
- 収蔵資料データベースへの登録の推進
- 大根分館、大多喜城分館の資料集約・保管

##### ②資料管理体制の強化

博物館資料を未来に引継ぐためには、収蔵庫を適切な状態に保ちながら管理することが必要です。

「**総合的有害生物管理（IPM）※1**」の手法や定期的な**温湿度モニタリング**等により、収蔵庫を最適な状態で管理するとともに、**職員の資料保存に関する知識を高め**、確実に博物館資料を未来に引継いでいきます。

- 総合的有害生物管理の手法や定期的な温湿度モニタリング等による収蔵資料の管理体制強化
- 資料保存に関する外部研修会等への参加による職員のスキルアップ

##### ③資料救済ネットワーク拠点機能の強化

千葉県内の博物館によって組織している「千葉県博物館協会」では、自然災害などにより大きな被害を受けたとき、協会全体でその資料を救済するシステムとして、「博物館資料救済システム」を運用しています。中央博物館は、同システムの**センター館としての活動を行います**。

また、個人や学校等の各地域で所有しきれなくなった資料を救済する必要もあります。このため、**資料に関する相談窓口を新設**し、市町村立博物館との情報共有を密にして、地域で保管している資料についての相談に応じる等、資料救済ネットワーク拠点としての機能を強化していきます。

- 「博物館資料救済システム」のセンター館として災害発生時の情報集約や平時の情報伝達訓練等を実施
- 県内各地の博物館や地域に所在する資料情報の集約
- 自然史系標本セーフティネット※2、歴史資料ネットワーク※3などと連携した全国規模の資料救済 **新規**
- 地域継承が困難な資料に関する相談受付 **新規**
- 寄託・寄贈資料の積極的な受入れ

## (2) 実施スケジュール

事業内容		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
① 収集資料の標本化・整理・修復作業及び登録の推進・整理	収集資料の標本化・整理・修復作業	継続的な標本化・整理・修復作業等			
	収蔵資料データベースへの登録	継続的な資料データベース登録			
	分館資料の集約・保管	大利根分館 大多喜城分館 資料確認・移動	大利根分館で資料保管・活用	本館・研修館・大利根分館で保管・活用	
② 外部システムとの連携	収蔵資料の管理体制強化	IPMの手法や温湿度のモニタリング等による収蔵庫の管理			
	資料保存に関する職員のスキルアップ	職員の外部研修等への参加（年2人程度）			
③ オンラインによる開催	県内各地の資料情報の集約	重点地区 ベイエリア	重点地区 九十九里	重点地区 上総臨海	重点地区 南房総
	自然史系標本セーフティネット、歴史資料ネットワークなどとの連携	連携検討	連携継続		
	地域継承が困難な資料に関する相談受付	体制検討・構築	継続実施		

## (3) 評価指標

目標	指標	現状	目標値	備考
			R10	
① 収集資料の標本化・整理作業及び登録の推進	資料データベースへの登録点数（累積）	504,902点 (R5年度)	一点	
② 資料管理体制の強化	収蔵資料の事故による破損件数	0件 (R5年度)	発生させない	
③ 資料救済ネットワーク拠点機能の強化	県内外の資料ネットワークとの連携数	0件 (R5年度)	一件	

※1 総合的有害生物管理（IPM）：文化財の生物被害対策を殺虫殺菌剤だけに頼ることを止め、予防に重点を置いて総合的に管理すること

※2 自然史系標本セーフティネット：貴重な標本の破棄・散逸を防ぐために設立された組織。博物館同士で寄贈標本に関する情報を一元化し、標本受け入れ先を効率よく探し出すことで、自然史をひも解く上で重要な資料となる標本を、少しでも多く救うことを目的としている。

※3 歴史資料ネットワーク：関西に拠点を置く歴史学会を中心に、阪神大震災で被災した歴史資料保全のために歴史資料保全情報ネットワークとして開設された。大学教員や院生・学生、史料保存機関職員、地域の歴史研究者などがボランティアとして参加する団体。

## 第1節 収集・保管

千葉の自然と歴史、文化に関する資料を集め、未来へつなぐために、資料の積極的な収集・保管体制の整備を推進するとともに、だれもが博物館資料とつながることができる環境を確立し、県民の宝を多くの人たちが利用できるようにします。

### (1) 具体的な取組と事業内容

#### ① 分野をつなげる ～自然・人文の連携による資料収集・保管～

地域館が収蔵していた資料が本館へ集約されることに伴い、自然・人文両分野の特性を活かした新たなコレクションポリシーを見直し、継続的な収集・保管につとめます。また、多様な分野の協働、他機関との資料を使った共同研究によって新たな資料の価値を創出します。

- ・自然・人文両分野の特性を活かしたコレクションポリシー（資料収集方針）の見直し（R7年度）
- ・自然・人文両分野の学芸員の協働による県南地域や海にかかわる資料の積極的な収集 **新規**
- ・千葉県にかかわりのある資料を県域にとらわれずに収集
- ・他機関・多分野との共同研究の推進による資料価値の創出

#### ② 地域をつなげる ～地域を俯瞰した資料収集・保管～

地域で活動する様々な主体と連携しながら資料収集や地域に所在する資料情報の収集を行うこと等を通し、県域全域を俯瞰した資料収集を行います。

- ・海岸地域や大規模開発地等、環境変化の大きい地域の集中的な資料収集 **新規**
- ・県の特徴を明らかにするために不足している分野の集中的な資料収集
- ・国内外機関との共同研究や資料交換によるコレクションの充実
- ・地域の人々によってに保存・保管されている資料情報の収集 **新規**

#### ④ 人をつなげる ～県民参加・協働による資料収集・保管～

市民研究員、ボランティアなど県民と協働して資料収集や整理作業を行うことで、県民とともに歩む博物館となると同時に、県民どうしの新たな協働を生み出し、人と人をつなげます。

- ・研究プロジェクトにおける県民との協働による資料収集の推進
- ・ボランティアとの協働による資料整理の推進
- ・他機関・多分野との共同研究の推進による資料価値の創出（再掲）

#### ⑤ 未来へつなげる ～これまでの成果の継承～

生きた資料であるリビングコレクション※1の扱いの検討等を含め、自然・人文両分野の特性を活かしたコレクションポリシーに見直し、継続的な収集・保管につとめます。

- ・コレクションポリシーに沿った計画的な資料収集

※1リビングコレクション：貴重な植物などの生きているままのコレクション。中央博物館には、埋土種子（長らく湖底等の地中で休眠していた植物の種子）から絶滅危惧種等の貴重な植物を発芽させ、生態環境の再生のために生育管理しているものがある。

## 第2節 調査・研究

博物館活動の根底を支える調査・研究を推進します。調査・研究にあたっては、**集約する地域館の機能を引継ぎ、自然と人文両分野が連携した視点**で活動を行うとともに、**県域を俯瞰した視点や全国的、国際的視点での活動を推進**していきます。

## (1) 具体的な取組と事業内容

## ① 分野をつなげる ～自然と人文の連携等による広域的な視点での研究実施～

自然・人文の各分野の研究に加え、両分野が連携した研究を推進します。また、各分野の学術水準を高めるための**普遍研究**※1も推進します。これらの研究にあたっては、文部科学省および日本学術振興会が交付する科学研究費助成事業※2等の外部資金も活用し、自然、歴史と文化の「おもしろい」を伝える基礎を蓄積します。

- ・両分野連携研究の実施
- ・自然・人文各分野別の研究プロジェクトの実施（研究課題「千葉の盆綱習俗」など）
- ・普遍研究の推進（「微小化石に基づく貝類化石の分類及び古生態の研究」など）
- ・科学研究費等外部資金の活用推進

## ② 地域をつなげる ～地域を俯瞰した調査・研究～

千葉県の自然の現状と歴史を把握し、その起源と成立過程などを明らかにすることを目的する**地域研究**※3を実施します。これらの研究を通して、千葉の自然、歴史と文化の「おもしろい」を見つけ、地域をつなげます。

- ・県内各地域を調査・研究する地域研究を実施（「房総の魚類誌」など）

## ④ 人をつなげる ～県民と市民団体と協働した調査・研究～

県民や市民団体等と協力しながら調査・研究活動を行うとともに、県民による自主的な研究活動等を支援することにより、新たな協働を生み出し、人と人をつなげます。

- ・県民や市民団体等と協働して行う調査研究の推進
- ・県民による自主的な研究活動を支援する市民研究員制度※4の推進

## ⑤ 未来へつなげる ～計画的な調査・研究の実施～

中央博物館や集約する地域館のこれまでの研究成果を踏まえ、県立博物館として行うべき研究の理念や責務等を明確化する研究ポリシー（研究方針）を策定し、中長期的視点で研究を進めます。また、専門技術の取得や最先端の情報収集のため、講習会や学会、セミナー等へ積極的に参加することで、職員のスキルアップを目指します。

- ・研究ポリシー（研究方針）の策定（R7年度）
- ・研究ポリシーに基づいた中長期の研究計画の策定（R8年度）
- ・専門技術の取得や最先端の情報収集のための講習会や学会、セミナー等への参加

※1 **普遍研究**：中央博物館で行う研究種別の一つ。博物館運営の底辺を支える学術的専門分野の水準を維持し、発展させるための研究。

※2 **科学研究費助成事業**：人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」。

※3 **地域研究**：中央博物館で行う研究種別の一つ。千葉県の自然の現状と歴史を把握し、その起源と成立過程などを明らかにすることを目的とする広い領域を対象とした研究。

※4 **市民研究員制度**：県民の自主的な学びを支援するための中央博物館の制度。博物館職員と連携して助言を受けつつ、個々のテーマに沿った調査研究活動を行う市民研究員を受入れている

## 第3節 展示・教育普及

県民の多様な知的好奇心に応えるため、自然と歴史、文化の魅力や課題を伝えるとともに、時事的な話題や県民ニーズを踏まえたテーマの展示・教育普及事業を実施します。また、年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等を実施します。

### (1) 具体的な取組と事業内容

#### ① 分野をつなげる ～千葉の「おもしろい」を五感で体感できる活動の実施～

自然・人文といった分野にこだわらず、様々な視点から展示・教育普及活動を実施します。特に、生態園をはじめとした、野外（フィールド）で、五感を刺激する事業展開を積極的に行います。自然の中で暮らす動植物を見つけ、音や匂いを感じることで、展示室の中では体験できない、自然のおもしろさを気付くことが可能になります。このような活動を充実させることで、千葉の「おもしろい」をより深く伝えます。

- ・ 森の調査隊<sup>※1</sup>をはじめとした、生態園での自然観察プログラムの充実
- ・ 未就学児からシニア層に対応した野外観察会・見学会の実施

#### ② 地域をつなげる ～県内各機関と連携した展示・教育普及事業の実施～

県内の図書館や公民館などの社会教育施設、道の駅といった観光施設等と連携した巡回展示やイベント等での出張展示を行います。また、「昆虫標本作製キット」など学習教材を学校等へ貸し出し出すと共に、社会教育施設が主催する講座等へ職員を講師として派遣します。これらの活動を通して、あらゆる地域の人々に博物館活動を届けます。

- ・ 社会教育施設や観光施設等の県内施設と連携した巡回展の開催
- ・ 県内各地で実施されるイベント等への出張展示
- ・ 昆虫標本作製キット等の学習教材の貸出
- ・ 社会教育施設等への講師派遣事業の実施

#### ④ 人をつなげる ～人が集まる展示・教育普及の実施～

誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等を実施することで、あらゆる人々が集まる博物館となるとともに、市民団体等との共催によるイベントや中央博サークル制度<sup>※2</sup>・市民研究員制度等によって、交流の機会を創出します。

- ・ 中央博サークル活動の推進
- ・ 市民団体等との共催によるイベントの開催（自然誌フェスタなど）
- ・ 展示や資料整理等におけるボランティアの受入れを通じた県民同士の交流の促進
- ・ 展覧会におけるユニバーサルデザイン等の活用

#### ⑤ 未来へつなげる ～千葉の未来を担う人材を育成～

千葉の自然と歴史、文化に関する知見を継承し、展示や教育普及事業を通してその魅力や課題を県民に伝えることで、次世代が未来を考えるきっかけをつくり、千葉の未来を担う人材を育成します。

- ・ 収蔵資料展、研究紹介展示などの実施
- ・ 中長期的な展示・教育普及計画の策定（R8年度）
- ・ インターンシップや職場体験、教育研修等の受入れ

※1 森の調査隊：生態園の木や生きものについての様々な課題をクリアし、職員との対話をとおして自然に対する理解を深めることを目指した自然体験プログラム

※2 中央博サークル：県民と館員とが相互に交流することで、中央博物館の博物館活動を発展させていくための仕組み。館員の支援や監修のもと、サークルメンバーが楽しみながら主体的にグループ活動を行うことができる。

## 第4節 重点事業以外の評価指標

### (1) 収集・保管

指標	現状 (R5)	目標値	備考
		R10	
博物館資料の収集点数（累積）	1,216,620点	－点	
千葉県立博物館情報システムの収蔵資料登録件数（累積）（再掲）	504,902件	－件	

### (2) 調査・研究

指標	現状 (R5)	目標値	備考
		R10	
千葉県の自然の現状と歴史を把握する論文や報告書等による公表数	10件	－件	
外部資金等を活用した研究件数	24件	－件	

### (3) 展示・教育普及

指標	現状 (R5)	目標値	備考
		R10	
生態園自然体験プログラムの参加者数	303人	－人	
中央博物館外で行われる講座等へ講師を派遣した回数	69回	－回	
ボランティア研修会等の参加者数	48人	－人	

# 第4章 運営体制

2章及び3章で整理した今後4年間（令和7年度～10年度）に取り組むべき事業計画を円滑に進めるため、当館の運営体制構築に向け、以下のような取り組みを進めます。

大項目	中項目（取組の方針）	目指すべき運営体制	運営体制構築に向けた今後4年間の取組
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	様々な専門分野に横断的に対応できるような体制づくり	○研究職員等の計画的かつ横断的な教育体制の確立
	②広域的な視点での活動	大学や企業等との幅広い分野での連携、MLA連携（隣接予定の複合施設との連携）体制の構築	○大学や企業等との連携体制の検討 ○ワーキンググループ等を活用したMLA連携の推進
		博物館事業のDX化を推進する体制づくり	○DX推進担当を配置するとともに職員向けにDX研修を実施
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	県内博物館のネットワークの拠点となるための体制づくり	○千葉県博物館協会を活用したネットワーク体制の充実
	②他機関との連携・支援	大学や企業等との幅広い分野での連携、MLA連携（隣接予定の複合施設との連携）等の他機関や地域との連携をとれる体制の確立	○大学や企業等との包括協定等による連携体制の検討【再掲】 ○MLA連携を推進する協議会・ワーキンググループ等の設置検討【再掲】 ○他機関や地域と連携を推進する研究会・ワーキンググループ等の設置検討
		複数機関との同時連携体制の構築	○複数の博物館との同時連携体制の構築にむけた意見交換の場等の設置検討
	③博物館と地域をつなげる	学校や社会教育施設との連携、県民や企業等との協力体制の構築	○連携・協力体制の構築に向けた学校等との意見交換の場等の設置検討
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	最新技術を取り入れることができる体制の整備	○最新技術を学ぶ研究会・研修会等への積極的な参加による人材育成
	②千葉県の魅力にふれる環境づくり	博物館と人々がつながりやすい環境づくり（情報共有サービスの向上、オンラインツールの活用等）	○博物館資料のでジタル化を推進 ○誰もがインターネットを通じて資料に直接アクセスできるシステムの構築
	③資料情報の一元化	県内の他機関との情報共有のための連携体制の構築	○県内各機関との連携体制構築に向けた研究会、・ワーキンググループ等の設置検討
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	県民からの情報提供ツールの構築、人々が利用しやすい施設の整備	○県民からオンラインによる情報提供を受け付ける窓口設置の検討 ○自動券売機の導入の検討 ○職員のホスピタリティの醸成
	②県民ニーズへの対応	ボランティアや市民団体等との連携体制の強化	○ボランティア等との連携体制の拡充 ○ボランティアや各種団体を対象とした研修会や研究会の実施
	③新たな協働を生む仕組みづくり	誰もが利用できるアクセシビリティの向上（情報共有、レファレンスサービスの充実等）	○年齢や国籍の違い、障害の有無に関わらず、誰もがインターネットを通じて博物館資料に直接アクセスできるシステムの構築
		国際交流も視野にいれた幅広い連携体制の整備	○博物館関係の国際大会の参加、人的交流など海外の博物館等との交流事業の検討
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	施設の整備（老朽化した施設の改修、防災・防犯機能の高い収蔵庫等の充実、アメニティ設備の充実等）	○施設の適切な維持管理・運営
	②長期的な視点での活動	非常時の博物館資料の救済体制の強化、施設の整備 社会情勢の変化に対応できる設備（可変性が高く、柔軟性のある展示等）の整備	○県内博物館等で組織する県博物館協会が運用する博物館資料救済システムのセンター館として、災害発生時のレスキュー体制を構築  ○可変性の高い展示什器（設備）の導入検討
		③人材育成	事務系を含む職員育成等による持続的な運営体制の構築と市町村立等博物館等への支援体制の確立

本実施計画を実行するにあたり、実施状況や達成度などを分析し課題を把握する「評価」を毎年度実施します。

## 【収集・保管】

■重点事業  
 ■重点事業以外の事業

大項目	中項目	10年間の事業展開	4年間の事業展開	実施館
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	自然科学、人文科学等個別分野の資料に加えて、双方の研究に関連した資料も収集・保管 現在収集されていない資料について、多分野の視点で情報を共有	●自然・人文両分野の特性を活かしたコレクションポリシーの見直し ●自然・人文両分野の学芸員の協働による県南地域や海にかかわる資料の資料の積極的な収集	本館+海
	②広域的な視点での活動	特定の分野や県域にとらわれず、県として保存すべき資料を収集保管 科学の発展に寄与する全国レベル、国際レベルの資料の収集保管	●千葉県にかかわりのある資料を県域にとらわれずに収集 ●他機関・多分野との共同研究の推進による資料価値の創出	本館+海
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	県域を俯瞰した視点での収集保管	●海岸地域や大規模開発地等、環境変化の大きい地域の集中的な資料収集 ●県の特徴を明らかにするために不足している分野の集中的な資料収集	本館+海 本館
	②他機関との連携・支援	非常時の文化財・博物館資料の救済の実施 国内外機関との交流による収集強化	○博物館資料救済システムのセンター館としての活動 ●国内外機関との共同研究や資料交換によるコレクションの充実	本館+海
	③博物館と地域をつなげる	県の施設の資料情報を一元管理するとともに、資料情報の集約による新たな地域資源を把握	○システム環境の整備 ●地域の人々によって保存・保管されている資料情報の収集 ○県内各地の博物館や地域に所在する資料情報の集約	本館+海
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	博物館資料情報のデジタル化等を推進 外部システム（研究者間資料情報共有システム等）との連携	○収蔵資料データベースへの登録の推進 ○博物館資料情報のデジタル化と公開 ○システム環境の整備（再掲） ○外部システムとの連携 ○自然史系標本セーフティネットワークなどと連携した全国規模の資料救済 ○収集資料の標準化・整理・修復作業の推進	本館+海
	②千葉の魅力にふれる環境づくり	収蔵資料や資料情報のアクセシビリティの充実・高度化	○システム環境の整備（再掲）	本館+海
	③資料情報の一元化	県の施設の資料情報の収集・管理	○県内各地の博物館や地域に所在する資料情報の集約（再掲）	本館+海
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	個人や市民団体、ボランティア等と協力した収集保管体制の確立	●研究プロジェクトにおける県民との協働による資料収集の推進 ●ボランティアとの協働による資料整理の推進	本館+海
	②県民ニーズへの対応	県民にとって財産となる資料の収集 個人や団体の所有資料の情報収集と受入	○地域継承が困難な資料に関する相談受付 ○寄託・寄贈資料の積極的な受入れ	本館+海
	③新たな協働を生む仕組みづくり	学術的価値・資料価値の高いコレクションの充実	●研究プロジェクトにおける県民との協働に資料収集の推進（再掲） ●他機関・多分野との共同研究の推進による資料価値の創出（再掲）	本館
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	収蔵資料の確実な管理、寄贈・寄託資料の受入れ	○収集資料の標準化・整理・修復作業の推進（再掲） ○収蔵資料の管理体制強化 ○大利根分館、大多喜城分館の資料集約保管 ○寄託・寄贈資料の積極的な受入（再掲）	本館+海
	②長期的な視点での活動	中長期的な収集計画の整備、継続的な収集を踏まえた収蔵スペースの確保 自然系、人文系それぞれの特性を活かした全体的なコレクションポリシーへの見直し、コレクションポリシーに基づく収集	●コレクションポリシーに沿った計画的な資料収集	本館+海 本館+海
	③人材育成	職員の資料管理等専門知識の習得、研修等の実施・参加、引継計画の立案	○資料保存に関する外部研修会への参加	本館+海

【調査・研究】

■重点事業  
 ■重点事業以外の事業

大項目	中項目	10年間の事業展開	4年間の事業展開	実施館
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	自然科学、人文科学等個別分野の研究に加え、両分野の連携による研究機能の強化	●両分野連携研究の実施 ●自然・人文各分野別の研究プロジェクトの実施	本館+海
	②広域的な視点での活動	専門領域、特定の地域にこだわらない広域的な研究 科学の進歩に寄与する全国レベル、国際レベルの研究	●普遍研究の推進 ●科学研究費等外部資金をの活用推進	本館+海
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	県域を俯瞰した視点での調査研究及び関連地域との比較研究等を実施するとともに、各地域の新たな魅力を創造	●県内各地域を調査・研究する地域研究を実施 ○千葉の海を探索する調査研究の推進と発信	本館+海
	②他機関との連携・支援	国内外機関との連携による全国レベル、国際レベルの研究推進 共同研究等の実施	○国立歴史民俗博物館、東京大学演習林等との共同研究 ○世界の博物館等との連携・交流 ○市町村立博物館等との共同研究 ○研究員制度の整備	本館+海
	③博物館と地域をつなげる	共同研究等の実施	●市民研究員等との共同研究の実施	本館+海
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	研究成果の発信・還元機能の強化（報告書や論文のデジタル化等）	○外部システムとの連携（再掲） ○SNS等での研究成果等の発信	本館+海
	②千葉の魅力にふれる環境づくり	レファレンスサービス強化のため、情報発信手段等を研究	○システム環境の整備（再掲）	本館+海
	③資料情報の一元化	資料情報の有用性を高める最新技術・事例の調査	○博物館資料情報のデジタル化と公開（再掲）	本館+海
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	個人や市民団体と協力した調査研究体制の確立	●県民や市民団体と協働して行う調査研究の推進	本館+海
	②県民ニーズへの対応	県民等による自主的な研究活動への支援	●県民による自主的な研究活動を支援する市民研究員制度の推進	本館+海
	③新たな協働を生む仕組みづくり	県内外の研究機関等との協働を生む専門性の高い研究の実施 県民や他機関等多様な主体と協働した研究活動の推進	○国立歴史民俗博物館、東京大学演習林等との共同研究（再掲） ○市町村立博物館等との共同研究（再掲） ●市民研究員との協働による調査の実施	本館+海
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	これまで実施してきた研究成果の継承 組織的視点での研究計画の立案	●機関リポジトリの整備・公開 ●分館海の博物館の開館以来の研究成果をまとめた開館30周年記念論文集の発行	本館+海
	②長期的な視点での活動	最先端の視点を踏まえた中長期計画の整備	●研究ポリシー（研究方針）の策定 ●研究ポリシーに基づいた中長期の研究計画の策定	本館+海
	③人材育成	職員の専門技術の向上、研修の実施・参加、引継計画の立案	●他機関の講師等を招いた研修会等の実施 ●専門技術の習得や最先端の情報収集のための講習会や学会、セミナー等への参加	本館+海

## 【展示・教育普及】

□重点事業  
■重点事業以外の事業

大項目	中項目	10年間の事業展開	4年間の事業展開	実施館
分野をつなげる	①自然科学、人文科学及び両分野が連携した視点での活動	人文系展示や講座の充実、充実した自然系の強みを活かした展示や講座、レファレンスサービスの実施 両分野が連携した総合的視点の展示や講座、レファレンスサービスの実施 自然と歴史、文化を五感で体感できる活動の実施（生態園やフィールドミュージアム等）	○自然誌系と人文系が連携した展覧会の開催(重点) ●森の調査隊をはじめとした、生態園での自然観察プログラムの充実 ●未就学児からシニア層に対応した野外観察会・見学会の実施	本館+海
	②広域的な視点での活動	専門領域を超えた広域的・国際的なテーマの展示や講座	○生物多様性などに関する研究の推進と発信 ○青葉の森公園主変施設との連携強化	本館
地域をつなげる	①県域を俯瞰した活動	県内各地の自然と歴史、文化を紹介する展示や、県内各地に足を運ぶきっかけとなる講座の実施	○千葉県の海をフィールドとした観察会や見学会の開催 ○フィールドミュージアム事業の実施 ○観察ガイドマップの作成 ○各種イベントや広報媒体等との連携による発信 ●学習教材の貸出 ●社会教育施設等への講師派遣事業の実施	本館+海
	②他機関との連携・支援	県内をはじめとする国内外での巡回展示、収蔵資料の貸出強化、出前展示・行事の実施	●社会教育施設や観光施設と連携した巡回展の実施 ●県立博物館合同事業の実施 ●県内各地で実施されるイベント等での出張展示 ○国立歴史民俗博物館との講座等の実施 ○東京大学千葉演習林との講座等の実施	本館+海
	③博物館と地域をつなげる	県内をはじめとする国内外での巡回展示、収蔵資料の貸出強化、出前展示・行事の実施 他館と合同、共催の展示や行事の立案・実施	●社会教育施設や観光施設と連携した巡回展の実施(再掲) ●県内各地で実施されるイベント等での出張展示(再掲) ○国立歴史民俗博物館との連携による展覧会、講座の開催 ○東京大学千葉演習林との連携による講座、観察会の実施 ○他機関との連携事業の実施	本館 本館+海
情報をつなげる	①成果の迅速な公開・発信	研究や資料収集等の成果の情報を迅速に発信 国内外へ情報をわかりやすい形で発信 誰もが楽しめる魅力的な展示や講座、ウェブコンテンツの充実 県内博物館ネットワークを活用した情報発信	○SNS等を活用した研究成果等の迅速な公開(再掲) ○デジタルミュージアム等ウェブコンテンツの充実 ○国立歴史民俗博物館との広報活動の実施 ○ウェブサイト、展示等の多言語化(再掲)	本館+海
	②千葉の魅力にふれる環境づくり	研究や資料収集等の成果の情報を迅速に発信 国内外へ情報をわかりやすい形で発信 誰もが楽しめる魅力的な展示や講座、ウェブコンテンツの充実 県内博物館ネットワークを活用した情報発信	○SNS等を活用した研究成果等博物館情報の迅速な公開(再掲) ○デジタルミュージアム等ウェブコンテンツの充実(再掲) ○国立歴史民俗博物館との広報活動の実施(再掲) ○ウェブサイト、展示等の多言語化(再掲)	本館+海
	③資料情報の一元化	県の施設の資料情報を誰もが気軽に利用できるような形で公開	○収蔵資料データベースへの登録の推進(再掲) ○市町村や団体等が県内各地で実施する野外における博物館活動等の情報集約・公開	本館+海
人をつなげる	①県民参加・協働型の活動	個人や市民団体、ボランティア等と協力した活動(フィールドミュージアム等) 年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施	●中央博サークル活動の推進 ●市民団体等との共催によるイベントの開催(自然誌フェスタなど) ○オンラインによる行事の実施 ○ウェブサイト、展示等の多言語化(再掲) ○フィールド・ミュージアム事業の実施(再掲)	本館+海
	②県民ニーズへの対応	時事的話題やニーズに即応した展示等の充実、次世代の学びに応える活動 年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施 専門性が高く、最新情報を取り入れた展示や講座等の実施	○展示等におけるデジタル技術の応用 ●展覧会におけるユニバーサルデザイン等の活用 ●アンケート調査による県民ニーズの把握と改善	本館+海
	③新たな協働を生む仕組みづくり	年齢や国籍の違い、障害の有無等にかかわらず、誰もが楽しめ、わかりやすい魅力的な展示や講座等の実施 専門性が高く、最新情報を取り入れた展示や講座等の実施 国内外の人材や施設を繋ぐ活動(学芸員と県民、県民同士等)	●中央博サークル活動の推進(再掲) ●市民研究員制度の推進(再掲) ○オンラインによる行事の実施(再掲) ○青葉の森公園主変施設との連携強化	本館+海
未来へつなげる	①これまでの成果の活用・継承	収蔵資料や研究成果を活用した展示や教育普及事業、成果をわかりやすくまとめた資料の作成、レファレンスサービスの強化、各地域の魅力の発信	●収蔵資料展、研究紹介展示などの実施	本館+海
	②長期的な視点での活動	中長期計画の整備 未来を考えるきっかけとなる事業の実施 次世代の学びに応える活動、地域のコアとなる人材育成支援	○デジタルデータ公開に係るポリシーの策定 ●中長期的な展示・教育普及計画の策定	本館+海
	③人材育成	未来を考えるきっかけとなる事業の実施 次世代の学びに応える活動、地域のコアとなる人材育成支援 博物館に携わる人材の育成とスキルアップの場になる	●インターンシップや職場体験の実習、教員研修等の受入れ ●ボランティアの受入れと育成 ●市民研究員制度の推進(再掲)	本館+海